

～今月の滑稽句より・・・

・二神重則 作

秋来ぬと雀ふつくら旨さうに

正直な心情を吐露して面白い。雀は焼鳥にすると美味であるが鳥獣保護の建前から、今は旨そうな雀を、指を銜えて見詰めるだけである。昔は、猟銃、空気銃、霞み網などで雀を獲り、食卓に供したものである。

・安藤淑子 作

観客より演者の多き文化祭

少子化が叫ばれて久しい。山村では全校児童が五人の処もあり、学芸会の演者は極めて少ない。掲句のような場面に遭遇した事はないが、実際にあつたら実に面白い。文化祭がよく効いた楽しい作品である。

・稲沢進一 作

渋柿や人を拒まず頑張らず

たわわに実った渋柿。悪童も渋柿だけは敬遠する。作者は「成るがまま落つるがままに山の柿」の人世を超越した心境であろう。冠に「渋柿や」と置いて、一層可笑しみむが増し、飄逸な句になった。最近、柿を食べる人が少なく、たわわに実り、そして朽ちていく。